（様式１）

資料２－２

バリアフリーの街づくり取組み推進状況モニタリング現地確認結果報告書

|  |  |
| --- | --- |
| 対象事例名 | 「障害のある子ってどんな気持ち？」 |
| 対象団体名 | 座間キャラバン隊 |
| 現地確認日時 | 　2016年　9月　27日（火曜日）13：45～15：30 |
| モニタリンググループ | 〔リーダー名〕　斉藤委員 |
| 〔メンバー名〕　酒井委員、藤解委員、野口委員 |
| 検　　証　　項　　目 |
| 先進性 | * 本研修事業は、小学生が興味・関心を強く持てるよう公演形式でプログラム化されており、それらは子どもたちに大変分かりやすい構成となっている。
* プログラム構成をみると、ビデオ放映、クイズ、寸劇、体験学習など参加型の学習手法が組み込まれており、子どもたちに分かりやすく伝えようとする工夫が随所にみられる。
 |
| 共感性 | * ビデオなど視覚情報を中心に説明が行われているため、障がい当事者（ダウン症児、自閉症児などの知的障がい児）の生活状況が具体的に把握しやすく、子どもたちに分かりやすく伝えられている。
* 模擬体験で言葉が伝わらないことの不安を寸劇で表現し、その際、担当教諭にも参加してもらうなど、より一層子どもたちの共感を高めている。また視野が狭いことを想定したペットボトルの使用でも、同様に教諭の参加で、子ども達が楽しみながら何が問題で、どうすればよいかを考える機会を提供している。
* 軍手をはめて折り紙を折るといった作業では、せかしたり、否定したりして、日頃いかに私たちが一方的な考えを押し付けているかを再確認させる。
 |
| 利用者の視点と県民ニーズの反映度 | * バリアフリー社会への理解促進に向け、こうした公演プログラムを子どもの時に体験することで、今、強く求められる共感の心につながる。
 |
| 波及効果 | * 今回のプログラムに参加した子どもたちを見ていると、楽しみながら、見て、聞いて、体験しながら学んでいることを確認できる。
* こうした参加・体験型による福祉教室の公演を、県下の多くの小学校で実施することを強く望みたい。
* 子どもたちがこうした公演を通し理解を深めることで、偏見などのない行動に繋がると考えられる。
 |
| その他 | * 知的障害を持つ子どもたちの紹介（例えば『得意なこともある』）の所は、写真が中心となっていたが、その際、具体例を見せるとさらに理解が深まると考えられる。
* 学校施設（設備機能）の制約で仕方ないのかもしれないが、前面で放映するテレビ画面のサイズが小さいため、後方の子どもたちには画面が小さく見づらくなっていた。特に文字は判読が不可能であった。
* 公演時間は約70分であったが、１時間を過ぎたあたりから下を向く（少し飽きてきた）子ども達が５～６名いた。（注：今回は計１２０名の児童が参加）

したがって、公演の時間は、６０分以内が小学生には適切ではないかと思われる。 |
| 所見 | * プログラムの中心をなす“模擬体験”では、様々な参加型学習の手法を使いそれらが組み立てられており、小学生にとって大変分かりやすく、また興味を持続して学習することのできる内容であった。
* ダウン症児や自閉症児は多様な問題を抱えて生活しており、それらの問題が生じた場合にどのような対応、手助けをして欲しいのかを具体的に示すことで、子どもたちの理解が深まったと考えられる。
* ダウン症や自閉症の子どもを持つ母親の実体験を通した話には説得力と分かりやすさがあり、そこに共感が生まれている。
* 全体のプログラム構成には大きな問題はないが、最後に子どもたちの感想や意見を聞く意見交換の時間を是非持っていただきたい。

後日、感想などをまとめる予定もあるかと思いますが、終了時、子どもたちの印象が鮮明な時に、是非、意見交換（振り返り）をしていただくことを希望したい。 |